

## 民主的な議論とは

### pro・con 議論

学生が討論の練習して行う pro・con 議論では、pro 側はタイトルを支持するデータをもってその立場で話をするし、con 側もそれに反対する立場で話をする。一連の議論のなかで、お互いの定義や前提が異なっていたり、議論の中に存在する矛盾やダブルスタンダードを指摘することが重要である。矛盾をつかれた時、相手が納得できるような説明をできなければ討論では負けとなる。

### 平等な立場での議論

学生によるクラブ活動の運用などがこれに相当する。pro・con 議論と異なり、各々が賛成・反対という立場に固執するのではなく、メンバーからの反対や賛成の根拠の情報を得ることにより、自分自身の判断が変わっていくのが常である。しかし、議論が尽きれば最終的には判断する人間（たとえば運動クラブのキャプテン）が多数決などで方針を決定する。これが民主的議論である。

### 執行部と現場との議論

会社で考えると、経営陣の方針が現場に説明される。PDCA サイクルとして実行してみて現場から何らかのアイデアが執行部にフィードバックなされたら、現場の motivation は上昇するだろう。

国と地方の現場との関係も執行部と現場の関係である。国はある法案を施行しようとする時、目的や方法について現場の人間を納得させる必要がある。現場からの質問に対しては執行部が丁寧に説明をすべきであり、方針に矛盾やダブルスタンダードがあってそれを改善しないのなら、それは単なる命令にすぎない。そして、理解の伴わない命令は現場の人間の motivation を下げる。

その一つの例として、保険証廃止に伴う資格確認証の発行について意見したい。現行の保険証で何が問題なのか？資格確認証の保険証よりいい点は何かということ現場の人間として、知る権利があると思う。私（たち）の主張する保険証存続希望というのはマイナ保険証の廃止ではないので、マイナ保険証があれば、国が主張する薬歴や検診歴を見ることができる。

保険証廃止を実行しようとする人間が、従来の保険証と資格確認証の違い、そして資格確認証の長所を現場の私たちに説明してくれないかぎり、現場の人間は motivation をもって仕事に励むことができない。

もし、法案ができてしまったので保険証廃止を撤回できなくなり、その代わりに追加コストが生じる資格確認証を発行するというなら、その法案に賛成した国会議員に責任はないのだろうか？そのためにも、保険証と資格確認証の違いの明確な説明を求めたい。

2023-9-21